

御津連区の「市長を囲む懇談会」【概要】

日 時 平成27年11月18日（水）午後7時から午後8時30分まで
場 所 御津文化会館
参加者 連区長始め60名
市長、企画部長、産業部長、建設部長、支所統括監

御津連区長あいさつ

足元の悪い中、お集まりいただき、誠にありがとうございます。昨年に引き続き、今年も市長さんをお迎えして「市長を囲む懇談会」を開催することとなりました。市長さんをはじめ各部長さんにおかれましては、公務ご多忙のところ御津連区の「市長を囲む懇談会」にご出席賜り、誠にありがとうございます。

早いもので、旧御津町が豊川市と合併して7年が経ちます。市長さんにおかれましては、この度3期目の当選を果たされ、私たちも御津地区の発展のために大変心強く思っているところです。

そのような中、御津地区はさまざまな課題を抱えており、毎年、この「市長を囲む懇談会」で質問させていただいたり、要望書を提出したりしています。去る10月16日にも市役所へ赴き、12項目にわたる要望書を提出し、市長さんにご説明申し上げました。本日は、そのうちの特に主要な3項目について、議題とさせていただいています。なお当初、区長会より議題として出されていましたが「照明灯の設置」と「通学路の安全柵設置」については、地区要望として文書でご回答くださることになりました。本日の議題からは取り下げさせていただきましたので、ご了承ください。

本日は、限られた時間ではありますが、有意義な懇談会にしたいと思いますので、皆様のご協力をよろしくお願いします。

（出席者の紹介）

豊川市長あいさつ

こんばんは。本日は、御津連区の「市長を囲む懇談会」を開催していただきまして、誠にありがとうございます。また、日頃から市行政の推進に格別なご理解、ご協力いただいていますことを、改めて感謝申し上げます。最初に市長になったのは8年前の10月20日でございますが、翌年すぐに御津町との合併の記念式典に出席させていただきました。あれからもうすぐ8年が経過するのだと思うと、感慨もひとしおでございます。皆様のご理解、ご協力に、改めて感謝申し上げます。

さて、今年は、終戦70周年でございます。豊川市は、70年前の8月7日に豊川海軍工廠が米軍機の爆撃を受け、壊滅状態に陥りました。本市では、市政施行50周年から、毎年8月7日に平和祈念式典を開催していますが、本年は被爆70周年

ということで特別な平和祈念事業を催しました。被爆では、2,500名以上の方がお亡くなりになり、特に、学徒動員や女子挺身隊といった若い方々が多く犠牲になっています。そこで、犠牲者と同人数の小・中・高校生たちに市野球場へ集まっていただき、爆撃音や煙幕等を使用した再現劇を行いました。大変暑い日でありましたが、無事、成功裏に終わり、うれしく思っています。また、名古屋大学が所有している海軍工廠跡地の一部を買収し、平和公園を整備する計画を進めており、長い協議の末、この度ほぼ合意に至りました。来年度から実施設計、建設と進めてまいりたいと思っています。

私は、3期目出馬にあたり、住みやすさ第一の豊川市を目指して4Sのまちづくりを掲げました。1つ目は「Smile (スマイル)」ということで、人口減少社会の中で子どもたちが健やかに育つよう、子育ての支援に力を注いでまいります。特に目玉事業といたしまして、市内36小中学校の普通教室へのエアコン設置を公約として掲げさせていただきました。4年間で設置が完了するよう、計画的に整備していきたいと思えます。2つ目は「Safety (セーフティ)」、安全安心で活気あふれるまちづくりということで、南海トラフ大地震がいつ起きてもおかしくない状況の中、防災対策を強化してまいります。その一つとして、市民の皆さん方に研修等で利用していただくとともに、さまざまな情報提供を行う拠点となる「防災センター」の整備を検討していきます。3つ目は「Soft (ソフト)」、人にやさしく健康で自然と共生したまちづくりということで、介護・福祉問題に取り組んでまいります。4つ目は「Simple (シンプル)」、わかりやすく無駄のない行政ということで、市の行財政について分かりやすく説明しながら、市民の皆さんとともにまちづくりを進めていきたいと思えます。以上の4つのSを掲げて、しっかりとまちづくりを進めてまいりますので、ご理解、ご協力をお願い申し上げます。

御津地区におかれましては、先日、JR愛知御津駅の橋上化を目指して「駅を活かしたまちづくり連絡協議会」が設立されました。私も、これが御津地区の皆様への長期にわたる懸案であることは、十分認識しています。これからどのようにしていけば実現できるのか、協議を重ねながら進めてまいりたいと思えますので、よろしくお願ひします。

また、もう1つの大きな懸案事項として、名豊道路23号バイパスの為当・蒲郡間が未開通であるという問題がございます。市では、近隣の交通渋滞等を解消すべく、早期開通に向け、職員5人が担当して、御津支所にある国の名豊道路工事事務所と協力しながら用地買収を進めています。

さらに先月から、御津支所には三河港工事事務所も入り、御津臨海の整備について進めていただいているところです。御津1区は、東日本大震災が起こる少し前に完成し売り出していますが、5年近く経ってもなかなか売れない状況です。そこで、企業誘致を進めるため、今年から土地代金の2割を市が補助するという政策を打ち出しました。少しでも早く、企業誘致が進むことを願っています。

さまざまな課題がございますが、本日は3つの議題につきまして、担当部長より回答させていただきます。皆様のご要望に添えるべく一生懸命がんばってまいります。

と思っていますので、忌憚のないご意見をいただき、有意義な会議になりますことをご期待申し上げまして、挨拶とさせていただきます。よろしく申し上げます。

議 題

Q (1) 御津地区のビジョンについて

私は、一昨年、町内会長として「市長を囲む懇談会」に参加させていただきました。その際、市長さんと身近で懇談する機会でありながら、市長さんのご意見をあまり聞けなかったという印象が強かったので、改めて市長さんのお考えをお聞きしたいと思います。

先ほどお話にもありました J R 愛知御津駅の橋上化に関連して、昨今、私たち市民もまちづくりを市役所に全部任せていい時代なのかということを考えるようになりました。駅の橋上化に向けて協議会が設立されましたが、まちづくりについても協議していかないと J R も受け付けてくれない気がします。さらに、この 10 年以内には名豊道路も開通するでしょうし、新東名も来年には開通します。高速道路を走っていても、車の流れは、東名から新東名へと移っている気がします。新東名を使って豊田へ抜けるようになるとうなるのかなと思います。また、御津地区には豊川市唯一の海があり、J R 東海本線と新幹線が走っており、これらをうまく活用して豊川市の発展につなげられないかと思います。

そういうことも含めて、豊川市の南部に位置する御津地区についてどのようなまちづくりを目指すのか、長期の展望をお聞かせいただけたらと思います。

A (1) 企画部長（企画政策課）

それでは、企画部長の池田がご説明させていただきます。

【PowerPoint 3】

御津地区に対してのビジョンということですが、市としては、個別の地区に対する「まちづくりのビジョン」というものを作ってはいませんが、10 年後、市域全体をどのようなまちにするか、目指すべきまちづくりの方向性といったものを、総合計画で定めております。

今現在、来年、平成 28 年度から 10 年間の新たな総合計画を作っておりまして、平成 22 年の合併後、18 万都市となってからは初めての計画となります。現在は、市民の皆さんから計画の中身に対してご意見を伺うパブリックコメントが終了した段階で、最終的には来年の 3 月に完成・公表となります。

【PowerPoint 4】

それでは、まちづくりということで市域全体を見てみますと、合併を繰り返し現在に至っていますので、行政機関が集まる諏訪地区を中央に、東に豊川地区、西に国府・御油地区と音羽地区、南に御津地区と小坂井地区、北に一宮地区といった市街地が形成されています。

このように行政機関や商業地などが集まる、主要な鉄道駅周辺の市街地を拠点に、それらを結ぶ道路や公共交通などを軸として、コンパクトで利便性が高く、暮らし

やすい、にぎわいと活力があふれるまちづくりを進めていくことを目指しています。この図は、新たな総合計画の中で、本市におけるまちの構成要素と、土地利用の方向性を明らかにしたものです。

簡単に内容を説明しますと、

先ほど言いました「行政機関や商業地などが集積する主要な鉄道駅周辺の市街地拠点」というのは、姫街道を軸として、拠点である豊川地区と諏訪地区、それらを結ぶ中央通地区、この3地区を一体的に捉えた中心市街地で、画面では赤色で示した部分になりますが、ここを「中心拠点」として位置付けることを予定しています。この地区は、行政機関、公共施設などの都市機能が特に集まったところとなります。

また、丸いオレンジ色の部分、6箇所ありますが、名鉄線の八幡駅、国府駅、音羽地区の名電赤坂駅、小坂井地区の伊奈駅、そしてJR線では御津地区の愛知御津駅と一宮地区の三河一宮駅、これらを中心とした地区を「地域拠点」として位置付けることを予定しています。この地区は、公共施設、商業などの地域の特性に応じた都市機能が集まった、暮らしの中心となるところです。

次に、地域の特性を捉えた土地利用についてですが、凡例のとおり、先ほどの中心拠点と地域拠点以外に、5つの「ゾーン」と「エリア」を定めまして、土地の利用、活用の方向性を明らかにしています。

まず、オレンジ色のまわりにある肌色の地区は、「まちなか居住ゾーン」で、比較的容易に中心拠点や地域拠点へのアクセスができて、商業などの都市機能が集まった、住環境が整備された定住を促進するゾーンとなります。

続いて、黄色の地区は、「くらしのゾーン」で、周辺の田園や自然環境と調和した住環境や沿道サービスの向上を図るゾーンです。青色の地区は、「ものづくりゾーン」で、積極的な企業誘致や工業施設を集めることで、工業生産や物の輸送・配送機能の充実を図るゾーンです。水色の地区は、「田園ゾーン」で、平野部に広がる豊かな田園地帯で、農地の保全を図るゾーンです。広大な黄緑色の地区は、「自然環境ゾーン」で、豊かな緑に囲まれた丘陵地で、自然環境の保全を図るゾーンとなります。

最後に、青色の点線で囲んだエリア、3箇所ありますが、これは、「新たな産業拠点エリア」で、交通ネットワークを生かした、産業の拠点形成を検討する地域です。エリアとしては、豊川インターチェンジと音羽蒲郡インターチェンジ付近、そして現在、整備を進めている国道23号蒲郡バイパスから国道1号と東三河環状線を含んだ地域となります。

また、総合計画では、新たな工業用地の開発を考えておりまして、ただ今、お示しした新たな産業拠点エリアを検討対象として定めております。工業用地の選定については、今後、愛知県の企業庁と充分調整を行ったうえで進めてまいります。

【PowerPoint 5】

また、総合計画では、市の事業に対する市民の満足度を目標数値としておりまして、市民意識調査によって、事業の目標達成の度合いを確認しています。調査は、2年に1度実施していますが、今年実施した第11回の市民意識調査の結果を、少

し紹介させていただきます。

【PowerPoint 6】

まずは、市全体の生活環境について、「豊川市は、住みよいまち」かどうか、お聞きしました。

画面では、過去2回の調査を含めた経年比較を示しておりますが、今回の調査では、「住みよい」そして「どちらかといえば住みよい」の回答が、合わせて69.2%と高い数値を示していますが、わずかながら年々減少しています。

ただ、無回答者も増加傾向にありますので、回答いただいた方に占める割合としては、年によって大きな差は見られません。

【PowerPoint 7】

次は、合併に対する満足度の結果です。

音羽、御津町との合併後、平成21年以降は市民意識調査のなかで、合併に対する満足度を調べています。今年の調査では、市全体として、「満足している」が5.9%、「どちらかといえば満足している」が18.9%で、この二つを合わせると24.8%が満足となっています。この満足度の数値は、反対に「どちらかといえば不満」の10.4%、「不満である」の4.5%を合わせた14.9%を上回る結果となっています。

地域別でみると、ご覧のとおり、旧豊川市の地域では、満足度が不満足度を大きく上回っております。

【PowerPoint 8】

しかし、旧宝飯郡の各地域では不満足度が満足度を上回っており、特にこの御津地区では、他の地区と比べても、不満足度の数値が大きく現れています。

今後においても、それぞれの地域の課題解消と、特色を生かした事業を行うなかで、市域全体の均衡ある発展を進めてまいります。

【PowerPoint 9】

最後に、この御津地域におけるまちづくりですが、愛知御津駅を中心とした市街地の形成が重要と考えていますので、毎年策定している総合計画の実施計画、これは3年間の具体的な事業の計画ですが、この計画の中の重要施策として、南海トラフ地震やゲリラ豪雨などに対する災害対策、道路や歩道整備を始めとする駅周辺整備、公共下水道などのインフラ整備、御津臨海部の企業誘致など進めていきたいと思っております。

A(1) 市長

私も、市民意識調査の結果から、御津地区の方の不満足感が高いことは承知しております。御津浜の1区の岸壁と、1区と2区を結ぶ臨港道路が整備されないとなかなか企業誘致が進まないという課題については、再三、県に強く要望している状況です。そのへんもご理解いただければと思います。

また、豊川市としての一体感を早く醸成しないと、いつまでも不満足感が残ってしまうということは重々承知しておりますので、皆様方と相談しながらしっかりと進めてまいりたいと思っております。

Q (2) 御津町御幸浜の開発について

御幸浜地区の埋め立て・造成に関しては、昭和 59 年、平成 20 年、平成 23 年、平成 27 年と順次進められてきました。そのうち企業誘致ができ利用されているのは、当初の 20.8ha（昭和 59 年）で 12 社の企業が活用しています。平成 20 年以降の造成地区は分譲中ですが、全体の 3/4 に当たる約 67ha の広大な面積が全部売れ残っています。

豊川市及び愛知県が様々な企業誘致施策に取り組まれています。1 社も誘致できないというのは何か要因があるのではないかと考えられます。今後、「御津ふ頭」が整備されると 2,000 t 級の船舶が着岸可能となり、企業誘致が容易になると考えられますが、防潮堤が 3.2m（震度 7 を想定）では東海地震、東南海地震、南海地震が想定されている現状において、危険な地区への進出は、企業としては二の足を踏むのではないかと思います。因みに、東日本大震災が平成 23 年 3 月 11 日に起こってから 4 年半が経過し、原発事故の問題もありますが、東北地方の復興はいまだに遠い状況です

平成 26 年 5 月 30 日発表の、愛知県東海地震、東南海地震、南海地震等被害予測では、震度 7、津波高 3.7m と従来の予測を上回っていますので、ここまでは防潮堤をかさ上げする必要があるかと思えます。

なお、堤外地（埋立地）の護岸・岸壁の高さについても防潮堤の高さに近づける必要があると思えますが、関連して、平成 20 年以降御幸浜地区開発に要した費用及びそのうち豊川市の負担額について、また、開発後の固定資産税はどこが負担するのか、さらに、東日本大震災以降防潮堤の高さをかさ上げすることを検討されたことがあるかについて、回答できる範囲でお答えください。

市長が初めて就任された平成 20 年 1 月 15 日に、御津町は音羽町と一緒に豊川市と合併し、それから約 8 年が経ちます。それまでの豊川市になかった、海岸線という今後拓ける可能性のある地区と合併できたことで、将来性を見込んでの開発計画があったであろうと思えますが、残念ながら現状は全体の 3/4 に当たる広大な面積が売れ残っています。もう少し、全面的に問題点として捉えていただき、さらに適切な企業誘致の方策等を立てていただけたらと思えます。

A (2) 産業部長（企業立地推進課）

それでは「御津町御幸浜の開発について」に関して、産業部長の鈴木がお答えいたします。

【PowerPoint 11】

こちらの図が、御津町御幸浜に開発しました御津 1 区、御津 2 区の工業用地でございます。御津 2 区につきましては、豊橋市と豊川市との地境がありますが、豊川市側にある企業用地は、全て分譲・リースという形でご契約いただいています。豊橋地の 21.8ha については面積が大き過ぎるため、現在も分譲中ではありますが、まだ買い手がいない状況です。

この御津町御幸浜は、1区、2区ともに、愛知県企業庁が事業主体となって開発と分譲を行っています。

【PowerPoint 12】

御幸浜の御津1区は、平成21年10月に第2期分譲用地（15.5ha）の分譲を開始し、市と愛知県企業庁が連携して企業誘致に努めてまいりました。しかし、ご指摘のとおりこれまで御津1区への企業誘致は実現していません。その原因は、平成23年3月に発生した東日本大震災の影響により、企業が臨海部を敬遠するようになったことが最も大きな理由であると考えております。なお、ご指摘のありました残りの面積約67haには、黄色で示した埋立済用地を含みますが、こちらには実際は道路が整備されますし、将来的には物流施設や倉庫群等の保管施設用地になるという三河港の計画になっており、正式には分譲という扱いにはなっていません。今後、整備が進む段階で分譲対象になってまいります。

【PowerPoint 13】

防潮堤の低さが問題とのことですが、平成21年の台風18号のときには、豊橋市の神野地区においても、高潮でコンテナハウスがプカプカ浮くという状況がございました。高潮被害対策として、御津1区では、企業庁が同年から施工の緑地整備の中で護岸を1m嵩上げする工事を行っています。これにより、御津1区の外周は海拔3.58m以上の高さとなっており、近年、台風が東海地方を直撃しても浸水被害は一度も報告されていません。

【PowerPoint 14】

ご指摘された平成26年5月発表の津波高3.7mの予測は「理論上最大想定モデル」という千年に一度もしくはさらに低い確率で生じる災害予測であり、本市は、同時発表の「過去地震最大モデル」という過去に南海トラフで発生した、宝永、安政東海、安政南海、昭和東南海、昭和南海の5つの大規模地震の被害想定による災害予測を機軸としてハード整備を行っています。

【PowerPoint 15】

過去地震最大モデルの予測では、豊川市は震度6強、津波高は3.2mになっていますので、御津1区の3.58mの護岸高はこれを満たしています。

また、津波が到達するまでには78分ございますので、理論上最大想定モデルへの対応については、「命を守る」ことを最優先に、高地への迅速な避難を対応策としております。

御津1区・2区には数多くの企業が立地しており、これらの企業には「御津臨海企業懇話会」という組織（企業の町内会のようなもの）に入っただき、災害時の迅速な避難のため、年1回、合同防災訓練を実施しています。今年も8月21日に開催しています。御津南部小学校に避難したり、御津2区の緑地の中には、高台を整備したりしています。完成すると高さ15m、頂上には約2,000㎡の平地ができます。

平成 25 年度には同報系防災行政無線増設工事を行い、高性能屋外スピーカー（ホーンアレイスピーカー）を設置して、緊急地震速報や避難勧告など、立地企業様に必要な防災情報をいち早く伝達できるようにしました。

本市は、これらの防災・減災対策も内外に周知し、安心して操業できる工業団地として御津 1 区への企業誘致活動を行っております。

【PowerPoint 16】

こちらは御津 1 区企業用地の全景でございます。

緑色の部分は第 1 期エリアで既に分譲が終わっており、12 社の企業が操業を行っております。赤色の部分は第 2 期エリアとして、製造業を対象に 15.5ha の用地を分譲しております。この図には各区画の面積が書いてありますが、企業が欲しい寸法で区切ることについては相談可能とのことです。ですから、例えば地元の中小企業さんで、もう少し小さい区画が欲しいということならば、相談に乗っていただけるそうです。黄色の部分は昨年度末までにすべての埋立てが完了し、将来は物流施設、保管施設用地として整備される予定です。臨港道路等が整備された段階で分譲されることとなります。青色の部分では水深マイナス 5.5m の公共埠頭の整備が進められています。完成後は 2,000 t クラスの内航船の利用を想定しており、御津 1 区のポテンシャルが更に高まるものと考えています。2,000 t クラスというと、伊勢湾フェリーが 2,300 t くらいですので、それよりも少し小さい船が入れるようになります。航路は水深 5.5m で、今は半断面ができているということで、残り半断面の整備が必要となっております。

平成 20 年以降の御津 1 区開発に要した費用については、県企業庁事業のため把握しておりませんが、すべて県事業のため、市費の負担はありません。また、企業庁は公営企業として独立採算性による事業を行っておりますので、御津 1 区につきましては金融機関からの借り入れにより造成事業を行っております。

開発後の固定資産税については、県企業庁が土地所有者の間は非課税となります。企業の立地後は、当該企業に対して土地・建物・償却資産などの固定資産税が課税されることとなります。

また、本市の製造品出荷額は平成 25 年の工業統計調査で 8,237 億円となっており、そのうち御津 1 区・2 区を主とする御津南部小学校区の出荷額は約 550 億円に上ります。このことから、本市は御津 1 区を重要な工業用地であると認識し、しっかりと企業誘致に取り組んでまいりたいと思っております。

【PowerPoint 17】

本市は、御津 1 区への企業誘致を早期に実現するため、従来の「企業立地奨励金制度」などに加え、「御津 1 区第 2 期分譲用地企業立地支援制度」を本年 4 月より創設し、分譲用地取得費に対する 20% 補助（10 年間に分割して上限 2 億円）や、工場建物にかかる固定資産税相当額の 3 年間交付などにより企業の初期投資を支援する取り組みを始めました。

企業の反応は良好でありますので、今後とも県企業庁と連携してこれらの優遇制度を呼び水にして御津1区への企業誘致活動を強く進めてまいりたいと考えています。

【PowerPoint 18】

また、御津1区は、東名高速道路や国道1号、国道23号名豊道路が当インターチェンジなどに近く、交通アクセスに優れた立地条件にあります。

さらに整備中の御津1区埠頭が完成すれば、海上運送を利用する企業の利便性も高まりますので、今後はこれら交通インフラの特性を活かした企業誘致ができるよう取り組んでまいりたいと考えています。

以上で、御津町御幸浜開発に関するご質問への回答を終わらせていただきます。

Q (2) 関連質問 御津町御幸浜の開発について

先ほど、御津地区の製造品出荷額について、本市の総額8,237億円に対して550億円ということで、全体の約7%を占めるとのご説明がありました。私が調べたところ、単純に比較はできませんが、豊橋市の明海地区は、660haの面積に100社を超える企業が稼動しており、ここ数年来の出荷額は4,000～5,400億円で、これは豊橋市全体の40～47%に当たります。また従業員数も8,000～9,000人で、豊橋市の工業人口総数の25～28%を占めています。合併するまでは豊川市になかった臨海地区に対して、今後いかに、開拓と企業誘致を進めて発展させていくか、もう少し詳しく将来的なビジョンをお示してください。

A (2) 関連質問 産業部長（企業立地推進課）

市が企業を選択するという事は大変難しいですが、何とか優良企業様には来ていただきたいと思っています。企業庁の企業誘致課には、東京に事務所を置いて優良企業と接触を図りながら、愛知県への企業誘致を図っていただいています。もちろん三河港地区の担当もおり、そういったルートを駆使して誘致に努めています。私が産業部長になったときには、2区の豊川市側に2箇所、空き地がありましたが、企業庁さんにしっかりPRしていただいた結果、2社との契約ができたとの実績もあり、全く進出企業が見つからないという状況ではないと思います。また、市といえども、新たに制度を設けて誘致を進めていきたいとの考えでございますので、ご理解くださいますようお願いいたします。

Q (2) 関連質問 御津町御幸浜の開発について

今のご回答では、県が主体となって誘致活動を行っているということでしょうか。

A (2) 関連質問 産業部長（企業立地推進課）

市と県が連携して行っているということです。

Q (3) J R 愛知御津駅および周辺の整備について

御津町が豊川市と合併するときから要望しています J R 愛知御津駅の橋上化と周辺整備について、進捗状況をお聞かせいただきたいと思ひます。

J R 愛知御津駅の橋上化は、旧御津町住民にとっては夢でありまして、御津地区の活性化に欠かせないものと思ひています。先ほどのビジョンのご説明にも出てまいりましたが、豊川市の「地域拠点」として J R 愛知御津駅周辺を活性化させることは、豊川市の発展のためにもかなり重要な問題だと思ひています。駅の橋上化と周辺整備、幹線道路や交通アクセスの整備、商店街の活性化、住宅整備などを同時進行させていくことが、御津地区の発展には欠かせないと思ひています。現在の進捗状況と今後の計画について、お聞かせください。

A (3) 建設部長（都市計画課・道路建設課）

ご質問につきまして、建設部長の荘田がお答えいたします。駅の南北ロータリーとこれにつながるアクセス道路、連絡橋、橋上駅に加え、御津地区内の幹線道路についてもご説明させていただきます。

まずは、幹線道路の整備状況についてご説明します。

【PowerPoint 20】

図 1 の最も太い赤線が、名豊道路（国道 23 号蒲郡バイパス）の計画地を示しています。名豊道路（国道 23 号蒲郡バイパス）から順に、事業を進めている路線について簡単に説明させていただきます。

まず、名豊道路（国道 23 号蒲郡バイパス）でございますが、区間を区切って、順に開通させるという方法で整備しており、事業主体は国です。名豊道路の中で最後の未開通区間が、蒲郡バイパス 15 km のうちの東部区間といわれる 9.1 km 区間で、蒲郡市のオレンジロードに接続する蒲郡インターから豊川市の東三河環状線に接続する豊川為当インターまでの区間です。更にその中でも豊川市内は 6.6 km ありまして、蒲郡市との市境である国坂峠から金野、豊沢、広石、為当を通過するルートとなっています。東部区間 9.1 km のうち蒲郡市となる 2.5 km 区間においては、平成 24 年度から用地買収が進められ、25 年度からは工事にも着手しています。

一方、豊川市内では 25 年度から用地買収を進めていまして、豊川市、蒲郡市合わせた東部区間全体で、26 年度末のデータですが、用地取得率は約 7 割となっています。

豊川市内の今年度の事業予定ですが、引き続き用地買収の推進と、昨年度までに用地が取得できた箇所、特に御津高校付近の工事に着手する予定を立てていまして、工事の入札が済んでも、現地の測量など準備が必要ですので、実際に現場で工事が始まるのは来年の 3 月頃になると国から聞いております。為当から蒲郡までは一度に開通予定と聞いておりまして、途中の金野インターで区切って開通ということは考えていないとのことですが、その時期については今のところ公表されていません。用地取得に見込みが立てば、後は費用的な問題や工事の技術的な問題となるので、目標年度が示されるのはそんなに遠くない未来だと思ひます。

次に、国府駅から赤根地区に抜ける国府赤根線についてご説明します。

昨年も説明しましたが、都市計画道路国府赤根線の整備事業については、近年目に見えた進捗は図られていません。ただ、地権者との交渉は市も間に入って続けていまして、早期に事業進捗が図られるよう努力しているところです。

具体的には、御津高校南側に計画されているトンネルの両側部分にかかる用地において4名の方が所有する物件が未買収となっておりまして、現在、こちらに重点をおきながら、用地の協力をお願いしています。また、このトンネルが開通したとしても、東海道本線を跨ぐ跨線橋や御津川横断部分の整備にも時間を要するため、全線開通にはまだ、かなりの時間が必要な状況となっています。市としましても、引き続き事業主体である愛知県に建設促進の要望を続けてまいります。

次に、下佐脇豊沢線についてご説明します。

都市計画道路下佐脇豊沢線は、国府御津線から、現在、福祉保健センターの北側までの約250mの区間で工事を実施しています。事業主体は県でございますが、今年度中に工事を終える予定だと聞いています。また供用開始後の大型車両の進入に備えて、福祉保健センター交差点から文化会館方面に曲がれるよう、一部市道の拡幅も予定しています。

この交差点から先では、土地改良事業で用地が確保されている区間もありますが、県道大塚国府線あるいは都市計画道路国府赤根線までの整備をいつ事業化するかについては、蒲郡バイパスや国府赤根線、それに御津川の改修などの進捗状況も関係しておりますので、これらを総合的に判断する中で、地元のご意見もお聞きしながら県と共に検討してまいりたいと考えております。

【PowerPoint 21】

続きまして、駅につながるアクセス道路の進捗状況です。松本入浜線については、旧御津町時代から事業を進めてまいりましたが、関係者の皆様のご協力により、昨年度予定していたすべての用地を取得することができました。

松本入浜線は、起点と終点以外は旧町時代に整備が完了していますので、今年度は起点となる県道小坂井御津線との接続部分となる95mの整備を行います。ご存知の方もお見えになると思いますが、既に工事に着手しておりまして、来年3月までに完了させる予定です。

一方、終点となる国道23号との接続工事、延長約45mほどですが、これについては来年度を予定しておりまして、順調に予算が確保できれば29年3月までに全線整備完成となる見込みです。ただ、公安委員会との協議により国道23号との交差点には中央分離帯が残り、右折禁止となることから、蒲郡市方面へのアクセスとして、今年度、市道御津西方井領田4号線の拡幅整備も同時に行い、暫定的に活用を図ってまいります。

御津為当線については、23年度の家屋移転以降、残った数名の方のご理解がいただけない状態が続いています。御津駅北口の開発にはなくてはならない道路であることは重々承知しておりますので、現在も粘り強く交渉は続けており、ご理解がいただけた場合は速やかに用地測量を行い、事業の進捗を図ってまいりたいと考え

ております。

最後に、駅と駅前広場について説明します。

昨年 10 月のこの場で、市において調査費がつき「愛知御津駅周辺まちづくり検討業務」として検討を進めている最中であるとのこと報告をさせていただきました。今年の 3 月まで調査を行い、5 月には連区長さんに調査結果を説明させていただき、6 月の市議会の場で報告させていただいたところですが、改めて説明させていただきます。

まず、駅の利用状況や駅周辺の交通状況の調査結果としまして、駅の利用状況は、乗る人が 1 日あたり概ね 1,300 名から 1,400 名程度で、年度別で比較すると横ばい及び微減傾向との結果です。また、皆様から危険箇所など指摘されています周辺交通状況の調査結果としまして、御油踏切と梨野ガードの 12 時間あたり横断者数がそれぞれ 891 名と 479 名あり、御油踏切の遮断についても最大で 1 時間あたりの遮断回数が 15 回と多く、遮断時間も 1 時間あたり最大 21 分間と長いなどの調査結果が出ています。こういった歩行者などの安全対策上の課題など今回の調査結果に加え、まちの分断や、歩行者や自転車利用の方で概ね半分の方が南側から北側にまわって利用しているなどの実態もあり、整備の必要性について再度認識させていただきました。

【PowerPoint22】

続きまして、図 3 をご覧ください。こちらは今回の業務において、駅施設の機能や規模、概算事業費について検討した図面の一例です。この図において、上が北側、下が南側を示し、東海道本線の線路が東西に走っています。赤の線で示されているのが南北のロータリー、青の線で示されているのが改札など駅舎やエレベーターを備えた南北通行のための連絡通路など、橋上駅化での整備内容を示しています。また、右側の整備予想図については、上が北側から、下が南側からの様子を示しています。

なお、この図面は、あくまで一例として描いたものであり、実際の整備内容についてはまだ決まっておりません。今後、関係各位と駅舎や連絡通路などどんな駅施設をつくるのか、また、南北の都市計画道路整備と合わせたロータリーの形状や駅前広場の大きさ等目標とする整備内容をつめていきたいと考えているところです。ちなみに、ここに示した絵で概算ではありますが、少なくとも 20 億円を超える事業費が必要となる結果となっております。なお、この 20 億という金額には、駅前広場の用地補償費などは入っていませんので、実際にはもう少し大きくなると思われます。

以上検討した結果について簡単に説明させていただきましたが、駅周辺の交通状況など具体的なデータや数値結果から、自由通路及び橋上化による駅舎等施設の整備の必要性が確認できた反面、事業費や J R との合意などの課題が顕在化したという面もございます。

そしてその J R との協議の進捗についてでございますが、率直に申しまして、J R の協力や理解は、今回の調査が示す乗降客数の動向などから、すぐに前向きな対

応は期待できない状況と考えられます。今後、整備の内容が駅周辺のまちの発展につながり、そのことで乗降客の増加が見込めるなどの状況を整えながら、粘り強く交渉を続けていくことが必要だと考えられます。そのため、市の担当部署におきましても、JRに対して、昨年につき今年度7月に、今回の調査結果や地元の皆様の熱意や活動もお知らせするなど、継続的に協議の機会を持たせていただいております。今後もこういった協議を続けてまいりたいと考えています。

現在、市で策定中の第6次総合計画には、今後のまちづくりに必要な施策として「主要な鉄道駅周辺の都市環境の整備」を掲げておりますし、市長が3期目の立候補するにあたり発表した政策ビジョンにも「鉄道駅を生かしたまちづくりを進めます」と記載してあります。御津地区につきましては、旧町時代から進めてこられたアクセス道路整備を引継ぎ、まずは道路を先行しながらこれと並行して駅部分についても検討、協議を進める方針で取り組んでいるところです。

11月12日には「駅を活かしたまちづくり連絡協議会」の第2回総会が開催され、規約や役員を決めていただきました。私も出席させていただきました。市としましてもそうした地域のまちづくりへの思いは是非聞かせていただきたいと考えておりますし、こういった地域のまちづくり活動が盛んになれば、市民全体の御津地区に対する理解やコンセンサス作りにもつながっていくことになるものと思われまます。また、鉄道事業者の理解を得るという面においても、地元の協力も得られる体制にあることは大切な要素となるわけでございます。

市としましても、地域の皆様の具体的な活動に期待するとともに、まちづくり勉強会などの開催など活動の際、ご希望があれば、職員も一緒になってまちづくりを検討してまいりたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

Q (3) 関連質問 JR愛知御津駅および周辺の整備について

行政の方にはしっかり取り組んでいただいておりますが、御津地区市民に期待することがありましたらお聞かせください。

A (3) 関連質問 建設部長（都市計画課）

「駅だけ完成すればなんとかなる」という考えでは難しいと思います。まちづくりの観点から「御津地区にこういったものがどうしても必要だ」「こういった形で発展させていきたい」ということを、行政と一緒に言っていただければ、行政としてできる限りのことはやっていきたいと思っております。

A (3) 関連質問 市長

本日の懇談会において、御津地区の皆さんの熱意を再確認したところでございます。愛知県の治水砂防協会の役員をしています関係で、実は一昨日、掛川で会合がございました。新幹線の掛川駅が新しく整備されたことはご存知かと思っておりますが、本当はもっと東京寄りの三島のあたりに整備する予定であったそうです。それを何とか掛川にもってきたいということで、約8億円もの市民の寄附を集めて要望に行

ったそうです。やはり熱意があれば通じると思います。いろいろと検討して進めてまいりたいと思いますので、よろしくお願いします。

Q (3) 関連意見 JR愛知御津駅および周辺の整備について

JR愛知御津駅の整備については、御幸浜にある工場の従業員は、御津駅ではなく蒲郡の大塚駅を利用しているという現実があります。もし、企業誘致によって今すぐ工場が進出したとしても、御津駅が現状のままでは利用者が大塚駅へ流れてしまい、乗降人員の増にはつながりません。企業誘致とJR愛知御津駅の整備は一体でない、どちらにとっても意味がないこととなりますので、ぜひ両方を合わせて進めていただきたいと思います。

御津連区長あいさつ

市長さんをはじめ副市長さん、各部長さん、本日は長時間にわたりありがとうございました。

私事ですが、先日、6、7年ぶりに旧富山村へ行ってみて驚きました。限界集落とはこういうものかと、まざまざと感じられました。数年前までは営業していた喫茶店や旅館は廃業し、たまたまかもしれませんが、1軒だけあった商店も閉まっていました。地区内を歩けば年寄りばかりで、せいぜい私たちの年代の人が畑を耕しているだけという光景を見て、大変寂しく感じました。それと比較するのは失礼ですが、この御津地区はとても恵まれた地域です。私は、地区が発展していくためには「次の世代の人がそこに残るだけの魅力あるまち」「いいまちだと子どもが感じるまち」でなければならないと思います。よく言われることですが、一番大事な女性は女性で、女性が「こんなまちは嫌だ」と出て行ってしまったら続かなくなります。先ほどの市長さんのお話では子育て支援に力を入れるとのことで、大変心強く思っております。合併して7年も経過しているので、我々も豊川市の一員だという意識で、一緒になって豊川市を発展させていけたらと思います。

以上をもちまして、御津連区の「市長を囲む懇談会」を終了します。本日はありがとうございました。